

二〇〇五年二月二十五日  
二〇〇六年一月一日  
発行刷



第 89 卷 第 1 号 史学・地理学・考古学

— 特 集 歴史学の現在 2006 —

- 湖南・樸学・「内」と「外」……………濱 田 正 美 ( 1 )
- 縄文時代集落研究の課題……………泉 拓 良 ( 22 )
- 「二年律令」研究の射程……………宮 宅 潔 ( 46 )  
——新出法制史料と前漢文帝期研究の現状——
- 日本中世都市の空間とその研究視角……………山 村 亜 希 ( 75 )
- 近世神聖ローマ帝国をめぐる研究動向……………洪 谷 聡 ( 109 )  
——近年のドイツにおける「国家・国民」意識によせて——
- 民主主義・平和主義・社会主義……………田 中 真 人 ( 137 )  
——日本共産主義運動史研究の最近の一〇年——

二〇〇五年度史学研究会大会講演要旨

二〇〇五年度史学研究会大会・総会の記録

史 学 研 究 会

京都大学文学部内

された。このほか役員の交代、名簿の作成などについても報告があった。

編集(杉山正明常務理事)からは、「史林」が順調に刊行されていることが報告され、さらに来年四月に「国境」をテーマとしたシンポジウム形式の例会を開催し、それを特集号に反映させたい旨が述べられた。

会計(田中和子常務理事)からは、二〇〇四年度決算報告、および二〇〇五年度予算案が提案され、拍手で承認された。

広報(吉井秀夫常務理事)からは、ホームページの運用や大会ポスターの作成・発送について報告があった。なお、広報担当常務理事は本年度から新たに置かれたものである。

これに引きつづき、公開講演が行なわれた。講演は次の二本であった。

泉 拓良氏「フェニキア・テュロス遺跡発掘調査の成果——ヘレニズム——ローマ時代を中心に——」

石川禎浩氏「死後の孫文——遺書と記念週」

講演者紹介と討論司会は、吉井秀夫・永井和岡理事がつとめた。講演内容は前掲のとおりであるが、ともに近年の調査に立脚し

た斬新な研究報告であった。討論も活発に行なわれ、異なった分野から有益な意見が出されていたのが印象的であった。公開講演のうち、夫馬進理事が閉会の辞を述べた。

(文責・吉川真司)

## 受贈誌

(二〇〇五年一月十七日)  
二〇〇五年十二月二日)

信濃(信濃史学会) 五七—一〇—一

一橋論叢(一橋大学一橋学会) 一三四—三

—四

日本学刊 JAPANESE STUDIE

S (中国社会科学院日本研究所中華日本

学会) 二〇〇五—五

史学雑誌(史学会) 一一四—一〇

国家学会雑誌(国家学会事務所) 一一八—

九—一〇

Вестник Древней Истории (Институт

Востолей Истории РАН) 032

Этнографическое обозрение (Институт

Этнологии и Антропологии имени Н.

Н. Миклухо-Маклая РАН) 2005-4

ИЗВЕСТИЯ русского ГЕОГРАФИ-

ЧЕСКОГО ОБЩЕСТВА (РОССИЙ-

СКАЯ АКАДЕМИЯ НАУК РУС-

СКОЕ ГЕОГРАФИЧЕСКОЕ ОБЩЕ-

СТВО) 136-3~4

史学(三田史学会) 七四—一—二

文化(東北大学文学会) 六八—三—四

文化(東北大学文学会) 六九—一—二

韓国史研究叢報(韓国国史編纂委員会) 一

三〇

美術研究(東京文化財研究所美術部) 三八

七

人文地理(人文地理学会) 五七—四

経済学研究(九州大学経済学会) 七一—五

—六

経済学研究(九州大学経済学会) 七二—一

人文研究(小樽商科大学) 一一〇

日本史研究(日本史研究会) 五一—八

日本歴史(日本歴史学会) 六九—〇

社会経済史学(社会経済史学会) 七一—二

経済研究(一橋大学経済研究所) 五六—四

アジア研究所報(亜細亜大学アジア研究

所) 一一〇

中央研究院歴史語言研究所集刊(中華民國

台北中央研究院歴史語言研究所) 七六一

三

福岡大学人文論叢（福岡大学研究推進部）

三七一一

尾道大学芸術文化学部紀要（尾道大学芸術

文化学部）四

地域アカデミー二〇〇四公開講座報告書

（広島大学大学院文学研究科歴史文化講

座・中国四国歴史学地理学協会）二〇〇

四

国立台湾大学法学論叢（国立台湾大学法律

学院出版）三四一四

### 編集後記

八九巻一号をお届けします。今号は、特集「歴史学の現在二〇〇六」といたしまして、研究動向を六本掲載いたしました。

昨年より「史林」は、特集号の試みをはじめております。歴史学・考古学・地理学におよぶ総合専門誌として各分野における優れた専門研究の発表機会を提供するとともに、分野をまたいで学界全体が共有しうる成果を確認するという役割を果たすためにいかにあるべきか議論を重ねてまいりました。とりわけ、歴史学が幅広い総合の学

問である一方で、研究の専門化、細分化という潮流に向きあつて、分野間の研究者の相互理解を活発にし、また各分野においても現在の研究課題や問題意識についてできる限り視野の広い議論の場を提供するためにはどうあるべきか模索を続けております。こういった課題に少しでもこたえたいという「史林」の試みとして本号は、昨年の八八巻一号に引き続き、研究動向を掲載した特集号として編みました。

さて、研究動向と申しましたが、そのスタイルは、それぞれの領域ごとの研究を網羅的に整理するものもあれば、新たなパラダイムを模索する一環として特徴ある研究に着目するものなど多岐にわたります。私の個人的な感想ではありますが、本号に寄せられた研究動向は「史林」らしく、史料の発掘、事実の発掘の現況を示し、また、そういった史料・事実の発掘を踏まえた歴史の具体像の提示がいかなる状況にあるかを論じたものとなっているのではないでしようか。冒頭論文にありますように、「事実の発見」にこだわりつつ、基礎的かつ総合的な歴史像を描くという課題を負つた歴史学が、現在いかなる位置にあるかを考え

つつ、御味読いただけることを願つております。

最後となりますが、今特集号をきっかけに、論説、研究ノートや書評などとあわせて、「研究動向」ならびに「論文評」への投稿がより一層、活発になりますれば、編集委員会といたしましても望外の喜びでございます。（山）

### ◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.soc.nic.jp/shu/index.html>

本誌には独立行政法人日本学術振興会平成一七年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）が交付されております。

二〇〇五年二月二十五日印刷 定価二二〇〇円  
二〇〇六年一月一日発行

史林

第八九巻第一号（通巻第四五五号）

〒東京都左京区吉田本町京都大学文学部内

発行人

史学研究会

振替京都〇一〇七〇二一五五番  
理事長 紀平英作

印刷所

中村印刷株式会社  
京都市南区上島羽篠田二九

## 史学研究会例会のお知らせ

左記の通り、史学研究会例会を開催いたします。多数、ご来会いただきますよう御案内申し上げます。

日時 平成十八年(二〇〇六年) 四月三日(土) 午前九時三〇分～午後五時三〇分

場所 京都大学文学部 新第三講義室

テーマ「国 境」

開会の挨拶 紀平 英作

《午前の部》司会 吉井 秀夫

1. 藤沢 敦「考古学的文化の変異と国家・民族の境界——倭と蝦夷と律令国家」

2. 古松 崇志「契丹・宋間の澶淵体制における国境」

3. 守川 知子「近代西アジアにおける国境の成立」

【西南アジア史】

《午後の部》司会 田中 和子

4. 合田 昌史「未征服地分配の言説——レコンキスタから世界分割へ」

5. 池内 敏「近世日本の西北境界」

【西洋史】

6. 寺山 恭輔「戦間期のソ連西部国境(フィンランド、ポーランド)における民族と政治」

【現代史】

7. 山崎 孝史「戦後沖縄の境界と政治行動」

【地理学】

総合討論

司 会 杉山 正明

コメンテーター 濱田 正美

上原 真人

吉川 真人

総合同司会

なお、例会終了後、懇親会(会費一五〇〇円)を予定しております。

(報告題目は変更となる場合がございます)

史 学 研 究 会

# THE SHIRIN

or the

## JOURNAL OF HISTORY

---

Vol. LXXXIX No. 1

January 2006

---

Special Issue

### HISTORICAL RESEARCH TODAY, 2006

- HAMADA Masami, «Sciences sobres» et Histoire de l'intérieur  
et de l'extérieur..... ( 1 )
- IZUMI Takura, Issues in the Study of Settlements of the Jomon Period..... ( 22 )
- MIYAKE Kiyoshi, The Possibilities and Limitations of the Research  
on *Ernian lüling*: Recent Research on the Wendi Reign Utilizing  
the Newly Excavated Bamboo Manuscripts ..... ( 46 )
- YAMAMURA Aki, The Review of the Studies on the Spatial Structure  
of Japanese Medieval Cities ..... ( 75 )
- SHIBUTANI Akira, Trends in Research on the Holy Roman Empire  
in Early Modern Times: In Light of the Consciousness of the  
Concepts of State and People in Germany in Recent Years..... (109)
- TANAKA Masato, What were the Achievements of Socialism in the  
20th Century? : Trends in Research on the History of the Communist  
Movement in Japan in the Last Decade..... (137)

Miscellaneous :

---

*Published*

*by*

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-9369